

# 「中央アジアで観る カーネーション」

昨年、国際交流基金による中央アジア文化交流ミッションでウズベキスタンを訪問した。街並みは、日本とは全く異なる。広告や電柱が見当たらず、街全体が公園のように緑に恵まれ、道幅は広く、ゴミも落ちていない。車や人が少ないからか、整然としていて逆に活気がないほど。これからの変化が楽しみな国である。

首都タシケントには、ナヴォイ劇場がある。この劇場は第二次世界大戦後、日本人抑留者約五〇〇人の手により建築された。彼らは日本に早く帰れるものと信じ一生懸命に働いた。一九六六年、ウズベキスタンで大地震が起こり、タシケント市も壊滅状態になったが、ナヴォイ劇場だけが整然とそびえ立ち、人々の避難場所となった。親日家であるウズベク人は、そのときの感謝を忘れていない。

私が約五年舞台衣装を手掛け、二〇一六年にニューヨークのブロードウェイでも公演をした和太鼓パフォーマンスグループのDRUM TAO。世界観客動員数七〇〇万人を誇る彼らもこのナヴォイ劇場で公演を行った。世界が求める日本の伝統技術の未来に向けた挑戦を衣装と共に魅せた。

ウズベキスタンを訪問中、私の母がヒロインのモデルとなったNHKの朝の連続テレビ小説「カー

## コシノジュンコ

プロフィール  
大阪府生まれ。デザイナー。史上最年少で装苑賞受賞。パリコレ、メトロポリタン美術館など世界各地でファッションショーをおこなう。オペラ、ブロードウェイミュージカル(太平洋序曲)(トニー賞ノミネート)、スポーツユニフォーム、インテリア、花火のデザイナー等も手掛ける。毎週日曜日17時よりTBSラジオで「コシノジュンコMUSIC」を放送。

ネーション」が放映されていた。私も現地で観たが、初めて外国で吹き替え版を観た。日本人の私からすると違和感があり、日本の情緒や空気が感じられなかった。ウズベク語に置き換えると、映像が日本のドラマでも、アジアのどこの国のドラマか分からない。私たちは例えばイタリア映画を観ても、イタリア語のユーモラスなニュアンスに魅せられ、イタリア映画が好きになる。日本の文化を発信すると共に日本語も併せて発信することは重要だと思った。

今年トルクメニスタンを訪問した。一九九一年にソ連より独立し、長い鎖国状態が続いていたが、今年で日本との外交樹立三十五周年を迎える中央アジアの一国として今後重要な国である。シルクロードのロマンに溢れる地域で、日本に対する好感度が高く、日本語の普及にも熱心だ。その一方で、私たちにはあまり馴染みのない国で、日本ではほとんど知られていない。街全体が白一色で、ベルディムハメドフ大統領のもと、たった二〇年程で徹底した美しい国づくりをした。こちらでも二〇二三年に大統領の一声で「カーネーション」が放送され、より一層日本に対する関心が高まった。今後、トルクメニスタン独自の文化を残しながら、日本文化と互いに刺激し合えば素敵だ。

## 月刊 みんな

7月号目次

- |    |  |    |                                 |
|----|--|----|---------------------------------|
| 1  | エッセイ 千字文<br>中央アジアで観る「カーネーション」<br>コシノジュンコ   | 12 | みんなく Information                |
| 2  | 特集 異国をまとう<br>異国装考<br>丹羽 典生                 | 14 | 想像界の生物相<br>人面有翼の天馬ブラーク<br>小林 一枝 |
| 4  | アフリカにおける「白い人」<br>佐々木 重洋                    | 16 | 新世紀ミュージアム<br>雲仙岳災害記念館<br>日高 真吾  |
| 5  | 黒い聖母は誰のものか——ヨーロッパ・キリスト教の裏表<br>新免 光比呂       | 18 | 手芸考<br>針仕事を引き継ぐ<br>笠井 みぎわ       |
| 7  | 「琉球人」を演じる人びと<br>笹原 亮二                      | 20 | ながなんちゃ<br>へぼい虫? クロスズメバチ<br>坂本 昇 |
| 8  | 日本人考古学者に仮装<br>関 雄二                         | 21 | 次号予告・編集後記                       |
| 10 | 〇〇してみました世界のフィールド<br>コミケサークルにおける参与観察<br>阮 立 |    |                                 |